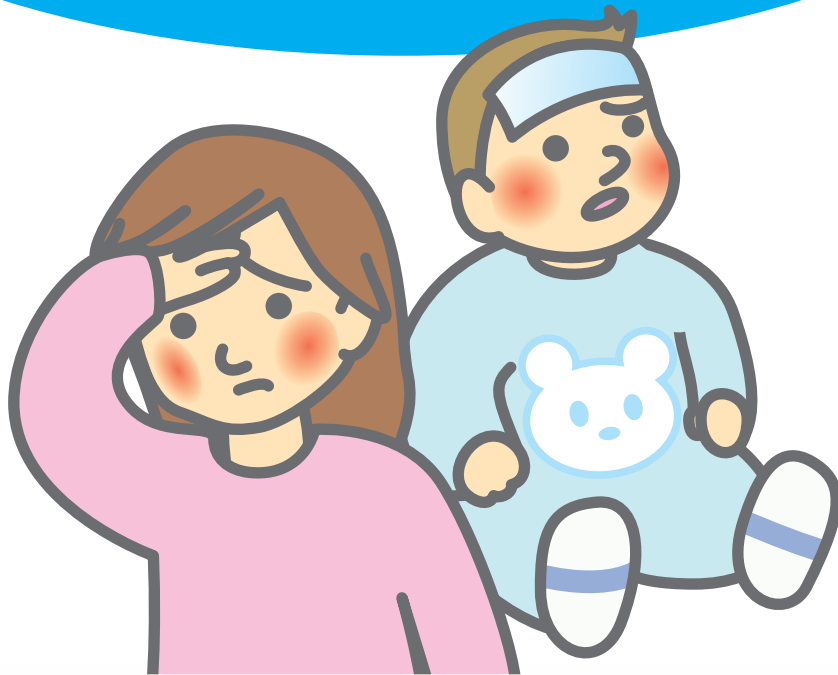


保育園 サーベイランス



感染症対策は、「記録」・「連携」・「早期探知」が大事です。

季節によって、各保育園で、どの程度の感染症流行があるのか「ベースライン」を知っていれば、備えることができます。

インフルエンザ・
ノロウイルス・麻疹等
の対策に有効



国立感染症研究所
感染症情報センター

園内での感染症流行の兆しをとらえて、拡大するのを抑える新しいシステムが開発されました。

保育園サーベイランス (保育園欠席者・発症者情報収集システム)

はやい段階で専門家（園医・臨床医）と相談ができ、早期対策で、感染拡大を防ぎます。
関係者が情報を共有することで、予防、治療ができます。

子供の健康を
まもる活動を
支援します。

記録・連携・早期探知を一元化した新しいリアルタイムサーベイランス

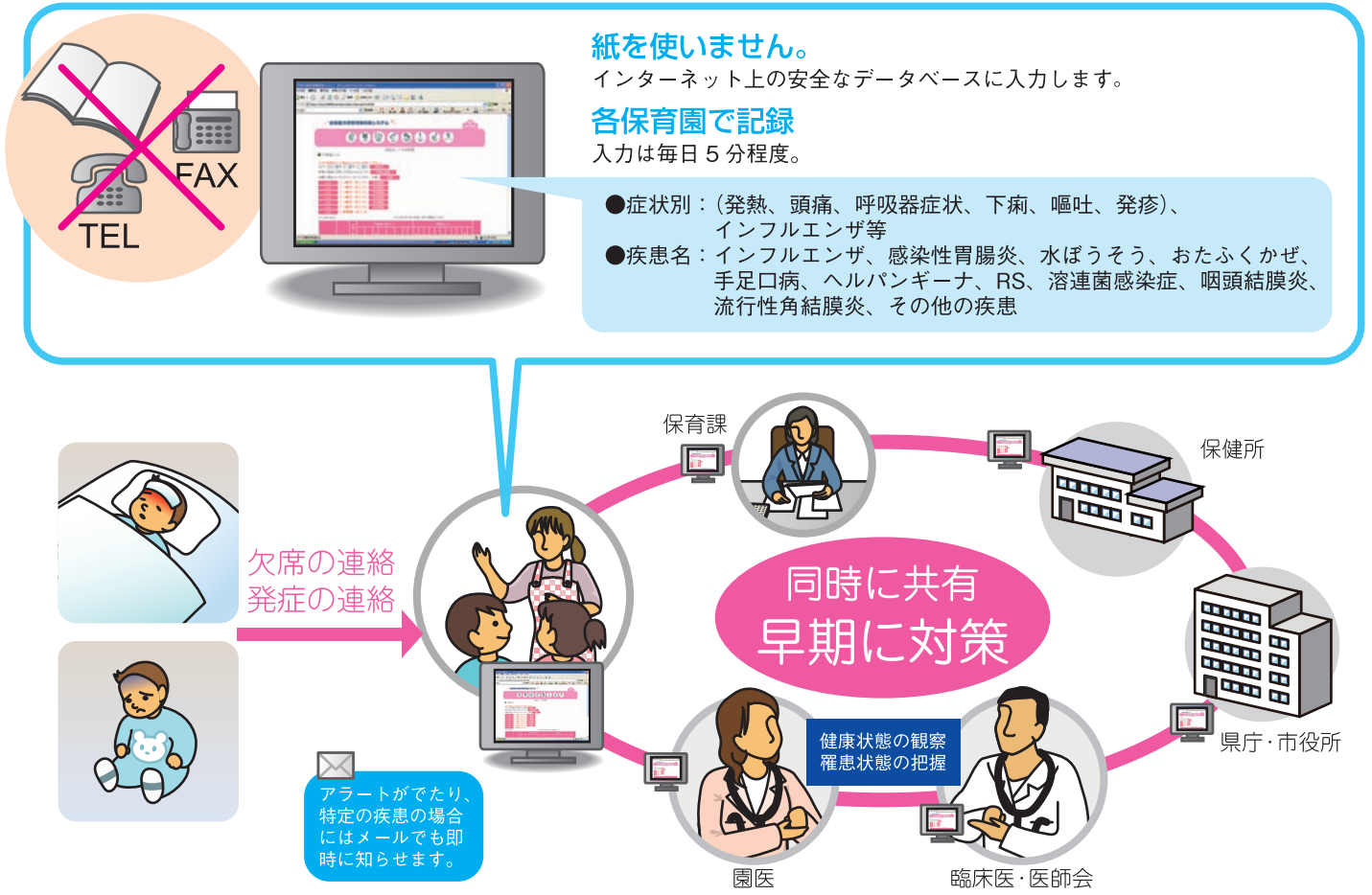
紙を使いません。

インターネット上の安全なデータベースに入力します。

各保育園で記録

入力は毎日5分程度。

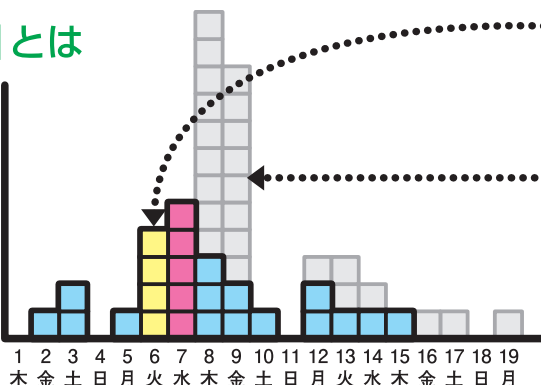
- 症状別：(発熱、頭痛、呼吸器症状、下痢、嘔吐、発疹)、インフルエンザ等
- 疾患名：インフルエンザ、感染性胃腸炎、水ぼうそう、おたふくかぜ、手足口病、ヘルパンギーナ、RS、溶連菌感染症、咽頭結膜炎、流行性角結膜炎、その他の疾患



なぜ必要？

「早期探知」とは

欠席した
園児・職員



この段階で早期探知していると、
専門家（園医・臨床医）と連携して
7日には、早期に公衆衛生対応、
予防対策をすることができます。

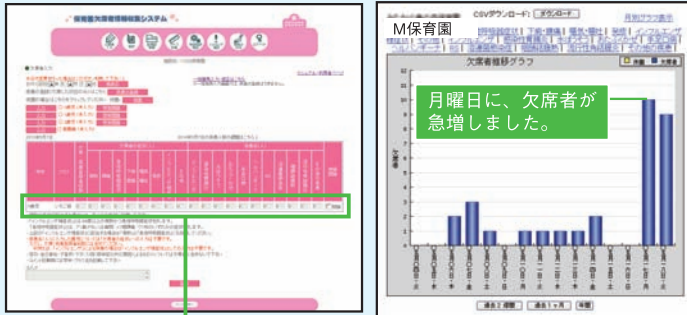
感染拡大を防ぎます。

サーベイランス（記録）をしていると、
このような状況がすぐ把握できます。
この増加傾向（異常）を発見できます。
これが、「早期探知」です。
次にとるべきアクションにつながります。

「保育園サーベイランス」による感染症対策

メリット 1 保育園ごとに解析

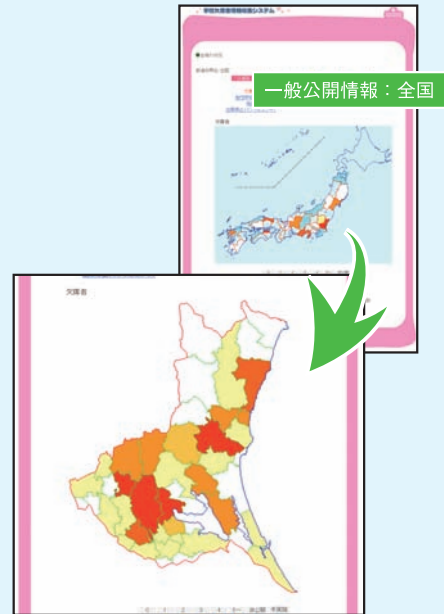
解析資料を自動作成
集計表、グラフ



- 欠席者数・発症者数を入力（個人情報含みません）
- 年齢、クラス毎

メリット 2 近隣の状況

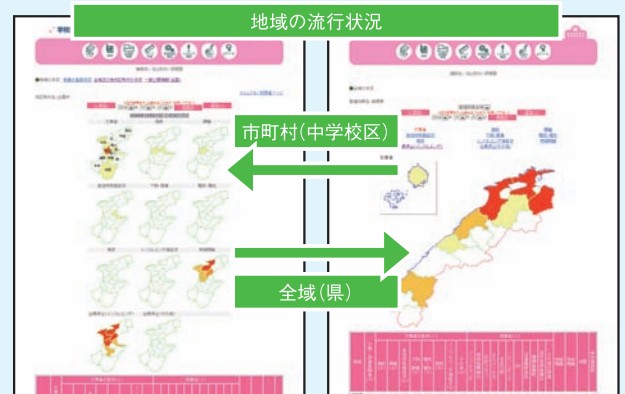
中学校区の地図情報で地域の流行状況把握



メリット 3 園医との連携

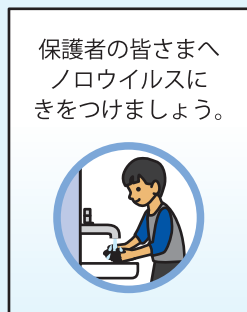
リアルタイムの情報共有
状況把握の説明なしに相談ができる
(予防の指導) → 早期対応で感染拡大防止へ

園内で流行が
はじまりそう。。。



メリット 4 迅速な対応

園内での感染症流行拡大に迅速に準備し、対応できる



メリット 5 省力化

月報の自動集計、
自動作成

メリット 6 費用はかかりません。
インストールする
ソフトもありません。

感染症対策の実施体制 厚生労働省：保育所における感染症対策ガイドライン（H21年8月）より抜粋

※赤字は、システムでの対応部分

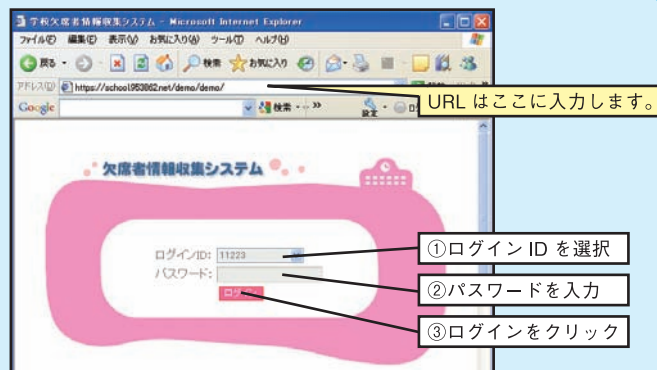
- 記録の重要性
 - ・ 数日間の症状の変化に着目し、それを感染症の早期発見や病状の把握等に活用 → グラフ対応、自動的に異常探知システム搭載
 - ・ 保育所全体のデータとして活用できるように記録を整理 → クラス別、学年別、全国の推移を視覚的に確認できるように対応
- 嘱託医の役割と連携
 - ・ 常日頃から感染症発生の対策についての情報交換をし、助言 → 園医もリアルタイムに情報共有（園医パスワード）
 - ・ 保育所の感染症対策には、嘱託医の積極的な参画・協力が不可欠 → 自動的にメールで通知

デモ版のご案内

「デモ版」で、システムをみることができます

URL : <https://school.953862.net/demo/demo/>
ログイン ID : 11223
パスワード : 11223

※上記 URL 及び学校 ID、パスワードはデモ環境となりますので、他の利用者が入力値を変更される場合があります



詳しくはこちら

<http://www.syndromic-surveillance.net/hoikuen/>

+++++ セキュリティについて +++++

安全なインターネットを使い、ID、パスワードで保護しております。いたずら目的で侵入されることはありません。個人情報は含んでいませんので、漏えいの心配はありません。経営上の配慮から行政以外には保育園が特定化されないようにしております。現在同じシステムを、全国 10 県 3 政令指定都市で既に小学校、中学校、高校で 1 年近く運用しており、セキュリティ上の問題は一度も発生していません。ご心配な場合は、大日（おおくさ）まで直接お尋ねください。

お問い合わせ

このサーベイランスを導入したいと思われましたら、ご連絡ください。保育園の住所（市町村）、担当者氏名、ご連絡先をお知らせください。

費用はかかりません。ソフトのインストールもいりません。

国立感染症研究所感染症情報センター

代表電話：03-5285-1111 FAX：03-5285-1129

感染症情報センター主任研究官

大日康史（おおくさやすし）

内線：2057 メール：ohkusa@nih.go.jp

感染症情報センター主任研究官

安井良則（やすいよしのり）

内線：2539 メール：yyasui@nih.go.jp

大日不在時は

感染症情報センター研究員

菅原民枝（すがわらたみえ）

内線：2056 メール：tammy@nih.go.jp

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金「健康危機事象の早期探知システムの実用化に関する研究」

（研究代表者：国立感染症研究所主任研究官大日康史）

<http://www.syndromic-surveillance.net>

平成 22 年度科学研究費補助金「社会福祉施設における欠席・発症者の早期探知の情報共有の開発評価」
（研究代表者：国立感染症研究所研究員菅原民枝）